

ヒトと同じ脊椎動物でありながら極端に寿命の多様性が大きい‘魚類’は、種によって老化の進行や寿命の長さがなぜ違うのか、を研究する魅力的な対象です。

● ニシオンデンザメ

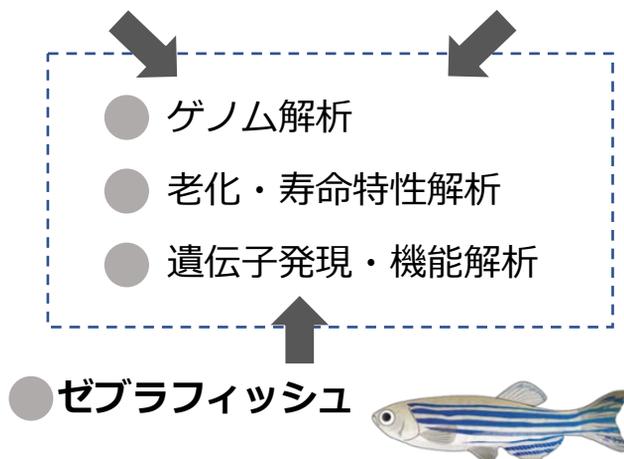


400歳近い個体が報告されている超長命種

● アユ



一年で死んでしまう短命種。繁殖をきっかけに、一斉かつ急速に死ぬ



● ゼブラフィッシュ



組織の再生や筋肉の終生的な成長など、魚に共通する様々な抗老化特性を示す

魚の寿命や老化の研究から、老化や寿命の種による違いが生じる仕組みを探求しています。また、なぜヒトがこのように老化し120年程度で死んでしまうのか、について新しい観点から理解できるのではと期待しています。



クラゲ類などが示す‘不老’や‘若返り’という特性にも興味を持っています。